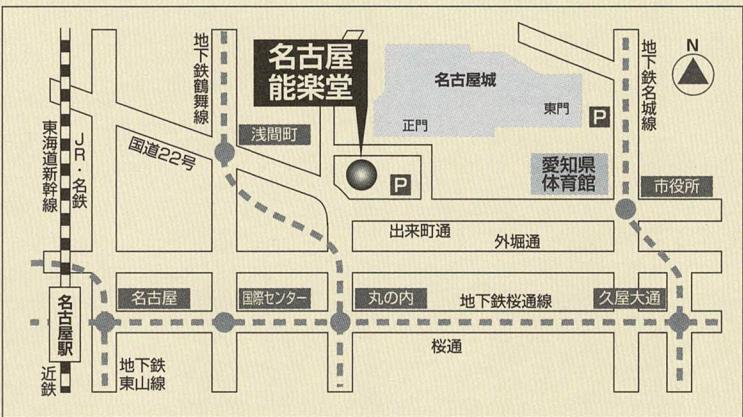


入場無料

- 携帯電話の電源を必ずお切りください。
- 許可のない撮影・録音は固くお断りします。
- 演目の時間は予定ですので、遅速をお含みおき下さい。

名古屋能楽堂案内図



ゆう ほ う かい

主催 宝生流 涌宝会

電話 ○三一三九四九一七三九五
Eメール info@hoshō-waku.net
HP <http://www.hoshō-waku.net/>

和久莊太郎



涌宝会大会

令和元年

第一日 六月一日（土）十二時半始

開場時間 十二時

第二日 六月二日（日）九時半始

開場時間 九時

於 名古屋能楽堂

名古屋市中区三の丸一丁目一番一号
電話 ○五二一二三一一〇〇八八

— 御挨拶 —

涌宝会大会は十四回目を迎えました。これもひとえに皆様のおかげと改めて感謝申し上げます。

さてこの度、宝生流教授嘱託・岡田真理氏が、宝生宗家のお許しを得て、能『羽衣』を「盤涉」の小書きにて舞わせて頂きます。また、当会や私自身、修業時代より大変お世話になりました、

笛方藤田流宗家・藤田六郎兵衛師への哀悼の意をこめて、勝手ながら
番外舞囃子『当麻』を舞わせて頂きます。

斯界一流の能楽師にお力添え頂き、今回も名古屋・岡崎・甲府・東京・横浜の各稽古場から社中が名古屋能楽堂に集い、日頃の稽古の成果を発表いたします。

皆様お誘いあわせの上、お時間の許す限り、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

涌宝会主宰 和久莊太郎

涌宝会大会 第一日 六月一日(土)十二時半開演

番組

〈舞囃子〉

小督 佐藤まりな

大鼓 河村裕一郎
小鼓 久田陽春子 箫 山村 友子

春日龍神 黒田 淳子

大鼓 河村眞之介 太鼓 澤田 晃良
小鼓 後藤嘉津幸 箫 大野 誠

草紙 洗 横本 美保

大鼓 河村裕一郎
小鼓 船戸 昭弘 箫 山村 友子

〈素謡〉

半蔀

(クセ前迄)

シテ 末永 恭子

ワキ 小鮎 忠明

〈舞囃子〉

源氏供養 江口 啓子

大鼓 河村裕一郎
小鼓 久田陽春子

笛

大野

誠

衣斐 澤田 宏司
今井 基

衣斐 玉井 博祐
石黒 実都 伊左
武田 伊左

辰巳 大二郎 山内 崇生 澤田 宏司
辰巳 和磨 澤田 宏司

辰巳 大二郎 山内 崇生 澤田 宏司
辰巳 和磨 澤田 宏司

大鼓 河村裕一郎
小鼓 久田陽春子

笛

大野

誠

衣斐 玉井 博祐
石黒 実都 伊左
武田 伊左

安宅永野進
遊行柳貝島忠夫

大鼓河村眞之介
小鼓船戸昭弘
笛竹市学

内藤飛能
衣斐正宜
和久莊太郎
今井基

大鼓河村眞之介
小鼓後藤嘉津幸
笛澤田晃良
内藤飛能
辰巳滿次郎
和久莊太郎
今井基

羽衣代田千恵子

小鼓久田陽春子

葛城太鼓加藤洋輝
胡蝶野田京子
高砂前澤啓介
嵐山酒井今日子

田代俊助

仕舞葛城太鼓加藤洋輝
胡蝶野田京子
高砂前澤啓介
嵐山酒井今日子

今井基
和久莊太郎
内藤飛能
辰巳和磨

十五時頃江八島崎井重信

辰巳大二郎
和久莊太郎
衣斐正宜
山内崇生
今井基

女郎花盛キ
末永恭子
竹下宏之

内藤飛能
辰巳和磨

居離子

西行桜坂本盛夫
立衆藤原洋

和久莊太郎
衣斐正宜
山内崇生
今井基

素謡シテ鶩野健

草紙洗

子方酒井今日子
貫之杉原洋

内藤飛能
辰巳和磨

番外舞離子

(次第地「危うき心はひまも無し」迄)

当麻和久莊太郎

大鼓河村眞之介
小鼓久田陽春子
笛鹿取希世

辰巳和磨

山内崇生
辰巳満次郎
澤田宏司

十六時十五分終演予定

以上

涌宝会大会

第二日 六月二日(日) 九時半開演

番組

〔仕舞〕

鞍馬天狗

玉

葛

高木麻梨子(名東高二年)
加藤瑞彩(名東高二年)

羽衣

衣
キセ

蔀

半

蔀
キセ

大竹ケイト(名東高三年)
河井佑斗(名東高二年)

保田将志(愛教大二年)
柴田愉梨(愛教大二年)

西岡穂乃佳(愛教大二年)

藤原宇春(名古屋大四年)
足立耀(愛教大四年)

上出遙香(愛知県立大二年)

竹生島
小生き
殺生石

嵐山
加茂

竹生島
小生き
殺生石

〔舞離子〕【名東高校能楽研究部】

大鼓 山本真由美 太鼓 黒田 千景
小鼓 高木麻梨子 笛 加藤 瑞彩

〔連吟〕

学生

橋弁慶

鶴亀

十時四十分頃
〔舞離子〕

名東高校能楽研究部・同卒業生

衣斐
竹内
石黒
武田
澤田
山内
和久莊太郎
辰巳大二郎

大島かいで
大竹ケイト
濱本怜大
河井佑斗
他一年生

内藤飛能
和久莊太郎
澤田宏司
辰巳和磨
和久莊太郎
辰巳和磨
和久莊太郎
辰巳和磨

松

風 柴田美穂子

大鼓 河村眞之介
小鼓 船戸昭弘

笛 鹿取希世

養

老 桜井千絵子

大鼓 河村裕一郎
小鼓 久田陽春子
笛 大野誠

〔舞離子〕

十時四十分頃

橋弁慶

学生

鶴亀

鶴

亀

松

風

柴田美穂子

大鼓 河村眞之介
小鼓 船戸昭弘

笛 鹿取希世

十一時半頃

〈独 調〉

東 北 日高喜久子

大鼓 河村總一郎
小鼓 久田陽春子
笛 大野 誠

衣斐 竹内 澄子 愛
石黒 実都
武田 伊左

恩田 義也

小鼓 船戸 昭弘

田 村

川口 園子

太鼓 澤田 晃良

杜 若

代永 礼子

小鼓 久田陽春子

〈獨 調〉

藤

〈素 謠〉

シテ 大久保和子

ツレ 小林みどり

ワキ 竹下 宏之

(中入迄)

澤田 宏司
辰巳滿次郎
和久莊太郎
今井 基
石黒 実都
辰巳大二郎
山内 崇生
内藤 飛能
宝生 和英
山内 崇生
辰巳大二郎
内藤 飛能
辰巳滿次郎
山内 崇生
辰巳 和磨

〈舞囃子〉

竹生島 杉原 洋

大鼓 河村眞之介
小鼓 船戸 昭弘
大鼓 河村裕一郎
小鼓 久田陽春子
笛 竹市 学

野 宮 恩田 加代

大鼓 河村裕一郎
小鼓 船戸 昭弘
笛 鹿取 希世

玉 葛 伊藤佐保里

大鼓 河村總一郎
小鼓 船戸 昭弘
笛 竹市 学

辰巳大二郎
山内 崇生
内藤 飛能
宝生 和英
山内 崇生
辰巳大二郎
内藤 飛能
辰巳滿次郎
山内 崇生
辰巳 和磨

橋 弁慶 和久莊太郎

大鼓 河村總一郎
小鼓 船戸 昭弘
笛 鹿取 希世

根内力レラ

〈素 謠〉

シテ 渡邊 康人

(地「我らを守り給へや」迄)

十三時頃

龍

ワキ 武元 和巳

辰巳大二郎
辰巳 和磨

十三時半頃

能 シテ 岡田 真理

羽衣 ワキツレ 橋本 宰

盤渉

ワキツレ 飯富 雅介
ワキツレ 橋本 窓

宝生 和英
和久莊太郎

辰巳大二郎 和磨
内藤 飛能
澤田 宏司
大鼓 河村總一郎 太鼓 加藤
小鼓 後藤嘉津幸 笛 竹市

佐藤 衣斐 洋輝
正宜 学

辰巳滿次郎 崇生
山内 崇生
澤田 宏司
耕司

素謡 シテ 崎井 重信

(クセ前述)

藤戸

ワキ 坂本 盛夫

山内 崇生
澤田 宏司

舞

胡蝶
鞍馬天狗

田中真理子
赤堀 薫子

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

船 シテ 村々

岩尾 紗彰
鈴木 嵐丸

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

十五時頃

大江山

武元 和巳

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

鶴

神谷 恭子

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

葵采上女 シテ 上女

新井 三穂
大久保和子

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

司宝会 シテ 若き

芳賀カズ子
能勢 涉

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

杜天鼓若 シテ 若き

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

名古屋翼会 シテ 小島 昭男

金岡 徹

辰巳大二郎 和久莊太郎
内藤 飛能
今井 基

経

(クセ前述)

地「されば彼」(略)

素謡 シテ 小島 昭男

照門会

ワキ 梅村

坦

和久莊太郎
今井 基

十六時頃

〈舞囃子〉

弓八幡鶩野 健

大鼓 河村眞之介 太鼓 澤田 晃良
小鼓 後藤嘉津幸 箫 竹市 學

大鼓 河村眞之介 太鼓 澤田 晃良

和久莊太郎 和英
辰巳 和磨

歌占菊池 尚希

大鼓 河村裕一郎 大野 誠
小鼓 後藤嘉津幸 箫 大野 誠
今井 基

大鼓 河村裕一郎 大野 誠

衣斐 正宜
和久莊太郎 和英
辰巳 和磨

桜川梅村 恵子

大鼓 河村總一郎 山村 友子
小鼓 久田陽春子 箫 山村 友子
武田 伊左基

大鼓 河村總一郎 山村 友子

衣斐 正宜
和久莊太郎 和英
辰巳 和磨

獨調竹下 宏之

獨調竹下 宏之

雲林院

小鼓 後藤嘉津幸

小鼓 後藤嘉津幸

蟬丸

山崎 文彥

山崎 文彥

獨鼓小鮒 忠明

獨鼓小鮒 忠明

西王母

太鼓 加藤 洋輝

太鼓 加藤 洋輝

素謡シテ 恩田 義也

賴光 代永 礼子

小蝶 恩田 加代

ワキ 日高喜久子

トモ 川口 園子

衣斐 武田 愛

武田 伊左 愛

(地「力を得たるばかりなり」迄)

鶴 龜

連吟

涌宝会会員全員

十七時半終演予定

以上

和久莊太郎

能 あらすじ

『羽衣 盤渉』 シテ 岡田 真理

ある春の日、三保の松原に住む白龍^{はくりょう}という漁師（ワキ）が釣りに出かけます。浜辺まで来ると、一本の松の木に美しい衣が掛かっているのを見つけます。白龍は持ち帰り家宝にしようとしますが、そこへ一人の美しい女性（シテ）が現れ、自分の物だから返してほしいと懇願します。その女性が天女であり、その衣が天の羽衣^{あまのはごろも}であることを聞かされた白龍は、それほど珍しい物なら國の宝にしようと返そうとしませんでした。しかし、天人が深く悲しむのを見て、天人の舞楽を舞つてくれたら返そうと持ちかけます。羽衣が無くては舞えないと天人が言うと、白龍は先に羽衣を返すと舞わずに帰つてしまふだろうと疑いますが、「天に偽りはない」という天人の言葉に、白龍は我が身を恥じ、衣を返します。そして羽衣を身につけた天人は、月宮殿の生活の面白さや松原の春の景色を讃える舞を舞い、天空へと帰っていきます。

◆ 「盤渉」の小書（特殊演出）が付くと、シテが舞う序ノ舞の笛の音高が途中から高くなつて盤渉調になり、より華やかになります（盤渉序ノ舞）。また、ワキがシテに衣を返す際、直接手渡さずに松に掛けて戻す、など、通常の『羽衣』とは違う演出が随所に見られます。

【令和元年 和久莊太郎 演能予定】

六月十六日（日）名古屋宝生会定式能（名古屋能楽堂）

能『草紙洗』

六月二十九日（土）納涼能（豊田市能楽堂）

能『芦刈』（ツレ 内藤飛能）

九月二十三日（月・祝）第6回和久莊太郎演能空間（宝生能楽堂）

能『烏帽子折』（牛若丸 和久凜太郎）

十二月十四日（土）五雲会（宝生能楽堂）

能『班女』

十二月二十二日（日）横浜能楽堂企画公演（横浜能楽堂）

能『羽衣』

〔お問い合わせ〕 和久莊太郎

FAX 電話

メール info@hoshio-waku.net

○三一三九四九一七三九五